

VERITAS WORK SMART TIPS

フォローして参考にすべき 6 人の科学者たち

Vol. 21
2022.03

* 本内容は STEMCELL Technologies 社の配信

<https://www.stemcell.com/efficient-research/immunologists-to-follow> の簡易訳です。

科学者たちにとって、「あなたの仕事はなんですか？」という質問は答えにくいかもしれません。世界中のほとんどの人は、皆さんのおこなっていることについて理解をしていないからです。

科学者の中には、幅広い層の聴衆に向けて自身の研究の話をするのを避ける人がいます。彼らは科学者仲間とは自身の研究について議論をしますが、一般の人々とそれをするのは滅多にありません。

「どうせ自分の研究を理解しないだろう」と考えているのです。

一方、現代の科学者たちは実験ベンチを飛び出して、科学をより開かれた身近なものにするためにサイエンスコミュニケーションを取り入れ始めています。

ソーシャルメディアの隆盛と共に、サイエンスコミュニケーションは急速に普及し、その重要性を増しています。

科学者たちは声を上げ、知識の壁は取り払われつつあります。彼らは研究者、臨床医、患者、教育者、そして一般の人との間にあるギャップを埋める架け橋としての役割を担っています。

現在は、研究分野への投資や科学にとって本当に不安定な時代です。科学者は目に見える形となり、ソーシャルメディア、マスコミ、コミュニティや学校へと出てゆき、科学とは何か、個々人にとってどんな意味を持つのか、なぜ科学や研究をサポートし続ける必要があるのかについて例を挙げながら伝えてゆく必要があるのです。

Dr. Eileen Parkes (@eileen_parkes)

トップサイエンスコミュニケーターは研究について幅広い層に伝えるのみにとどまらず、研究の現状についての対話を推進しています。彼らは科学コミュニティの現状打破を推し進め、21世紀の科学がより良く、もっとスマートな方法でおこなうことができるものになるよう励んでいます。

皆さんがサイエンスコミュニケーションに関して初心者、またはコミュニティの活動的なメンバーであったとしても、ここでご紹介する刺激的な6人の免疫学者たちから新しい展望を得て、彼らのTwitterアカウントをフォローしてみてください。

※所属・役職は掲載当時のものです。

Dr. Akiko Iwasaki



Dr. Akiko Iwasaki は、Yale School of Medicine の Immunobiology and Molecular, Cellular and Developmental Biology 教授、Howard Hughes Medical Institute の研究員を務めています。彼女の研究では粘膜表面でのウイルスに対する免疫応答に焦点をあてています。科学に関してツイートしているほか、彼女は #WomenInSTEM のインスピレーションショナルチャンピオンであり、サイエンスにおける学生の幸福感や男女平等についての対話を推進しています。

学術研究を進めるために安全で互いを尊重しあえる環境を提供することは、私がもっとも大切にしていることのひとつです。

これは科学の世界で活動する女性やマイノリティの人々にとっては特に重要なことです。その理由は、研究における通常の課題に加え、私たち（女性・マイノリティ）は差別、無意識の偏見、ガスライティング（心理的虐待の一種）、ハラメント、インポスター症候群などの問題にも対処しなければならないからです。最低限私たち皆ができることは、研究を続けてゆくことができるよう、仕事環境を平等なものにすることなのです。アカデミアの世界において、親切には報い、有害な行動を罰する必要があるのです。

Dr. Akiko Iwasaki (@VirusesImmunity)

Dr. Eileen Parkes



Dr. Eileen Parkes は Queen's University Belfast の Academic Clinical Researcher であり、DNA 損傷に対する免疫応答、特に STING (Stimulator of Interferon Genes) 経路に焦点を当てて研究しています。ネイチャージョブズジャーナリズムコンペティションの優勝者であり、mentorship、scientific successそして science communication に関するブログ記事を投稿しています。

科学や研究をわかりやすく伝えることができれば、人の命を救うことができる - 私はがん患者さんの治療について話すことに多くの時間を費やして、ある治療法がなぜ正しいと思うのかを明確に説明し、信頼を得て、関係を築くことができるのは、サイエンスコミュニケーションの真髄だと思います。

心の繋がりを排した単なる事実の羅列ではうまくいきません。このことは私が自分の研究について伝える時にも当てはまります。文脈に即してデータを配置し、個人にとってそれがどのような意味を持つのかについて理解し、自身のストーリーの文脈中に当てはめてゆくのです。こうすることで人の心をつかみ、効果的に伝えることができるのです。

Dr. Eileen Parkes (@eileen_parkes)

Fane Mensah



Fane Mensah は University College London の博士 (PhD) 学生です。彼は B 細胞と免疫代謝に焦点を当てて研究をおこなっています。

彼はまた、英国免疫学会フォーラムの博士代表、ロンドンの「[Science Entrepreneur Club](#)」の管理ディレクターでもあります。生命科学分野におけるネットワーク構築の助けになればと願いながら、Faneさんはサイエンスにおける起業家精神についてのニュースをツイッターでシェアしています。

博士課程を通じて、私は常に「ライフサイエンスのエコシステム」という大局に関心を持ち、学術界、バイオテクノロジー、大手製薬会社、政府などがどのように統合されているかを理解することに努めてきました。

素晴らしいアイデアが浮かんだら、あなたはどこからスタートしますか？

起業家精神を持った科学者として、私は積極的にサイエンスを伝えてきました。

主要なステークホルダーに働きかけ、知識を得るために様々な交流会やミーティングに参加してきました。

サイエンスを推進することができればと願い、Clustermarket (研究器具を販売するオンラインマーケット) と連絡を取り合いました。そして私たちは一緒に科学起業家クラブ「[Science Entrepreneur Club](#)」を設立しました。

若い研究者たちはアカデミアや企業を通してだけでなく、起業家の観点からもライフサイエンスのエコシステムに触れるべきです。

自身の研究について伝え、他の人々と自身の考えを共有し、課題について議論するための建設的な方法を見つけましょう。あなたや、あなたの研究プロジェクトが、次のイノベーションに寄与することになるかもしれません。

Fane Mensah (@Fane_Mensah)

Dr. Kaitlyn Sadtler



Dr. Kaitlyn Sadtler は Massachusetts Institute of Technology の Dr. Robert Langer 研究室のポスドク研究員です。彼女の研究では組織工学と再生医療における免疫システムの利用に焦点が当てられています。彼女は2018年のTED フェロー(2018)であり、最近では「どうしたらもっと速く治癒するよう私たちの体に教えることができるか (How we could teach our bodies to heal faster)」をTED Talk で発表しています。彼女は「2019年サイエンスにおいて世界を変える30歳未満」30人にも名を連ねており、科学に関するニュースとコミュニケーションのためのブログである「[ICEBERG: Under the Surface of Science](#)」の創設者でもあります。

写真出典：TED/Bret Hartman

若手研究者である私たちには、より広い公共の場で自身の研究について話すことがありません。TED talk で発表することは非常にエキサイティングで学ぶことの多い経験でした。比較的短時間で、自身の研究分野（あるいはサイエンスそのものにまったく）になじみのない人達にむけて研究について発表するやり方を学ぶことは、研究者にとって非常に重要なことです。

自分がTED フェローに選ばれたことを初めて知った時、私はそれを信じるできませんでした。私はその後興奮して飛んだり跳ねたりしたので、メールが届いた時に話していた研究技術者をきっと怖がらせてしまったに違いありません。その後はめまぐるしく忙しい日々が続いていますが、フェローのコミュニティは本当に素晴らしい場です。

Dr. Kaitlyn Sadtler (@KSadtler)

Dr. Pedro Veliça



Dr. Pedro Veliça は Karolinska Institute の、Dr. Randall Johnson の研究グループで免疫学、低酸素症、がんについての研究をおこなっています。彼は現在の科学的知見や自身の研究生活からインスピレーションを得たウィットに富んだ科学マンガを集めた @pedromics の制作者であり、漫画家です。

[@pedromics](#) は科学マンガのウェブサイトであり、免疫学の概念をきわどいしゃれの効いたイラストで面白おかしく説明することに最も重点を置いています。

私はいくつかの違った場所で研究員として働いてきましたが、皆が一杯のコーヒーカップをもって集まり、お互いを笑わせようとマニアックなギャグを飛ばしあうことがよくありました。すると誰かが、「そのことを漫画にしてみたらいいんじゃない？」と言うので、そこから Pedromics は生まれたのです。

Dr. Pedro Veliça (@pedrovelica)

Iva Filipovic



Iva Filipovic は、University of Cambridge の Dr. Francesco Colucci's lab で子宮の自然リンパ系細胞について研究する博士課程の学生です。

トロポプラスト研究センター (Centre for Trophoblast Research) のメンバーとして、生殖免疫学に熱意をもって取り組んでおり、ソーシャルメディアの時代にサイエンスコミュニケーションを大いに活用する科学者としての素晴らしい例と言えます。

私は、自分の研究のインパクトについて広く伝えたい。それは、資金提供してくれる組織と、(情報の受け手である)一般の人々の両方に重要なポイントです。一般の人々は、なぜ自分たちのお金が私の研究に投入され、それはどのように自分たちに影響するのかを知る権利があります。

ツイッターでは、私は自分の直接の研究分野以外の分野の研究者をフォローしています。様々な分野の専門家が自分の周囲を取り巻いている環境には知的刺激があり、得られるものが多いものです。

科学は以前よりも学際的になってきていますが、ツイッターはこれを加速する非常に優れた触媒として機能します。ツイッターができる前には、私はそんなにたくさんの論文を読んでいませんでしたが、今では毎日多くのことを学んでいます。

Iva Filipovic (@IF91)

ここでご紹介しているのは、サイエンスコミュニケーションに情熱を持っているたくさんの免疫学者たちの中の一つのたった6人に過ぎません。

誰かフォローしたい人はいましたか？

[@STEMCELLTech](#) も訪れて、フォローしたい人がいたかどうか教えてくださいね。

サイエンスコミュニケーションを 推し進めましょう

ここでご紹介した免疫学者の方々と同じように、STEMCELL Technologies 社でも [サイエンスコミュニケーション](#) に注力し、サイエンスの世界での交流を推進するために取り組んでいます。



[#SciComm: これは単なるハッシュタグではありません](#)

ここでは、キャリアアップのために科学者がどうやってソーシャルメディアを使ったらよいかについてのウェビナーを開催しています。

[今すぐウェビナーを視聴する>](#)



[サイエンスをおこなう上で求められるもの](#)

STEMCELL Technologies 社では、増大し続ける研究に対する要求(研究する上で必要なことや課題)について話し合うことが重要と考え、推進したいと考えています。要求に対処するために、皆さんは何ができると思いますか？

[サイエンスをもっと学ぶ>](#)



今回は「科学者同士の交流を深める7つのヒント」をお届けします。

日本総代理店

株式会社

ベリタス

〒105-0013 東京都港区浜松町1丁目10-14
住友東新橋ビル3号館5階
TEL.03-5776-0078(代) FAX.03-5776-0076
E-mail: veritas@veritastk.co.jp
<https://www.veritastk.co.jp/>